

鯖寿司と瑠璃光院

中尾 成実

(2018 年度入学 鈴木ゼミ 2 期生)

新幹線に乗って2時間。中学3年生の修学旅行、初めて訪れた京都に魅せられた。高校3年生になり、進路に悩んだが、進学先は京都に決めた。15歳の私が感じた、あの日のトキメキを信じてみたいと思ったからだ。テレビ、旅行雑誌、映画で何度も見たあの路地、あのカフェ、有名すぎる名所。地元からだと夢の果てだった場所に、緑のバスと600円の魔法の周遊券でどこへでも簡単に行ける。「私は今、京都で大学生をしているんだあ。」と、夢見心地だった3年前。大学生の賞味期限はあっという間に、残り9か月となった。家に帰りたいたと抱き合っ泣いた日、寮近くのカレー屋に通い詰めた日々、鴨川で語り明かしたあの夜が、眩しく、恋しい。

きっかけは母からのLINEだった。「瑠璃光院、綺麗なところだね、最後の京都楽しんでおこなきゃね。」すぐさま、#瑠璃光院 で検索。液晶からでも伝わる美しさに期待が膨らむ、行くしかない！

6月12日晴れのち曇り。集合場所は出町柳。さあ出発、の前に腹ごしらえ。出町の商店街の中にある満寿形屋(ますがたや)へ。創業100年を超える老舗の大衆食堂で頂いたのは鯖寿司。肉厚で脂ののった鯖寿司は絶品。「こんな美味しい食べ物を21年間も知らなかったのか。」と感激した。冷凍技術が発達するその昔、海が遠かった京都の



都では、塩と酢でしめた寿司や具材に、火を通して味をつけた寿司の文化が発達した。その中でも鯖寿司は、京都の寿司の代表格になった。古くから日本人は魚を発酵させた、なれ寿司を食べていたようで、馴染みのある今の形の鯖寿司が誕生したのは江戸時代と言われている。当時、鯖街道と呼ばれた福井県の小浜から都まで続く、鯖を運ぶ街道が複数あった。鯖は傷みが速いので塩漬けにして鯖街道を歩いて運ぶと、2日から3日の行程でちょうどいい塩加減となり、親しまれた。現在も京都では、祇園祭や葵祭で鯖寿司を作るだけでなく、1年を通して鯖寿司や、しめ鯖を家庭でも作り、スーパーなどでも簡単に購入することができる。まだ食べたことのない方は、ぜひ。あまりの美味しさに頬つぺたが落ちます。ちなみに、満寿形屋は、12時の開店前から行列ができるので、時間にゆとりをもって行くことがオススメだ。



いよいよ本題。出町柳駅から叡山電鉄に揺られておよそ15分、終点八瀬比叡山口で下車。そばを流れる高野川の清流に沿って歩き、吊り橋を渡れば、瑠璃光院に到着する。比叡山の麓にある浄土真宗の寺院である「瑠璃光院」は、通常非公開だが、春の青もみじと秋の紅葉の時期にだけ公開される。山門を抜け、書院に続く参道には100種以上の紅葉が参拝者をもてなす。数奇屋造りの書院は、大正時代の終わり頃から昭和初期にかけて、京数奇屋造りの名人と称される中村外二によって造営された。また、佐野藤右衛門一門の作庭と伝わる、瑠璃の庭があり、「瑠璃色に輝く」と表現されるほど苔の絨毯が美しい。晴れの日には優しい木漏れ日が、雨の日にはみずみずしい緑が艶やかで、どちらも楽しめる。瑠璃光院といえば、黒塗りの机の天板に美しく反射した、リフレクション風景が有名だ。5年ほど前から、InstagramなどSNSで話題となり、混雑時は4時間待ちとなるほどの人気寺院だ。うっとりするほど美しく、ゆっくりと時間が流れていた。ここ、八瀬の地は、矢背、とも記されるように、壬申の乱で背中に矢傷を負わされた大海人皇

いよいよ本題。出町柳駅から叡山電鉄に揺られておよそ15分、終点八瀬比叡山口で下車。そばを流れる高野川の清流に沿って歩き、吊り橋を渡れば、瑠璃光院に到着する。比叡山の麓にある浄土真宗の寺院である「瑠璃光院」は、通常非公開だが、春の青もみじと秋の紅葉の時期にだけ公開される。山門を抜け、書院に続く参道には100種以上の紅葉が参拝者をもてなす。数奇屋造りの書院は、大正時代の終わり頃から昭和初期にかけて、京数奇屋造りの名人と称される中村外二によって造営された。また、佐野藤右衛門一門の作庭と伝わる、瑠璃の庭があり、「瑠璃色に輝く」と表現されるほど苔の絨毯が美しい。晴れの日には優しい木漏れ日が、雨の日にはみずみずしい緑が艶やかで、どちらも楽しめる。瑠璃光院といえば、黒塗りの机の天板に美しく反射した、リフレクション風景が有名だ。5年ほど前から、InstagramなどSNSで話題となり、混雑時は4時間待ちとなるほどの人気寺院だ。うっとりするほど美しく、ゆっくりと時間が流れていた。ここ、八瀬の地は、矢背、とも記されるように、壬申の乱で背中に矢傷を負わされた大海人皇



子(天武天皇)が、八瀬のかま風呂で傷を癒されたことから、平安貴族や武士たちに「やすらぎ」の郷として愛されてきた。訪れた人皆が、ぺったりと座り込み、吹き抜ける爽やかな風と新緑で、心を洗濯しているようだった。また、拝観受付の際に、写経セットが手渡され、写経を体験できる。今回、自然に溶け込む日本の美しさに触れ、心が整った。瑠璃光院は、秋も荘厳。草木が紅く染まる頃、もう一度訪れたい。また鯖寿司を食べて、叡山電鉄に乗って。大学生活、やり残したことがないように、楽しんでおこなきゃね。

【参考文献】

鯖寿司 <http://www.excite.co.jp>

瑠璃光院 <http://rurikoin.komyoji.com>